

漁業あんぜんニュース

2019年3月 創刊号

茨城県農林水産部漁政課

水戸市笠原町978番6

海や内水面でも春の音が聞こえてきました。今日も安全操業お疲れ様です。

さて、県水産部局では茨城海上保安部や鹿島海上保安署と連携して、漁業の安全対策に取り組んでいるところです。漁船や航海機器などの安全性が向上してきている一方で、県内の漁業における死亡・行方不明者は、最近の2年半で9名となっているのが現実です。

「命を守る」ことは悲願であり、事故による負傷や財産の損失も減らし、なくしたいものです。「命を守る」ことに直結するのが、「落水しない」と「救命胴衣を着ける」です。救命胴衣については、平成30年2月から着用義務が強化されたところです。

★救命胴衣の着用率

平成30年8月の調査では、各漁協の救命胴衣着用率は15～100%で、まだ完全着用には至っておりません。

★救命胴衣着用の意義

「自分の命」のためであり「家族のため」でもあります。「ただいま～」「おかえり！」のいつもの会話がいつまでも続くことを願っております。また、救助や捜索を行う「仲間のため」でもあり、更に就業者・後継者の確保にも関わってきます。

★救命胴衣の種類

救命胴衣として様々なタイプがありますので、自分に合ったものを選ぶことができます。浮力体には**固型**(メンテナンスが楽)、**膨脹**(コンパクト)、**気体密封**(作業性が良い)があり、形状には**ベスト**(保温・保護)、**首掛け**、**ベルト**(かさ張らない・暑くない)、**合羽ズボン**や**上着と一体**

★事故例に学ぶ (運輸安全委員会船舶事故調査報告書の本県事例ほか)

- 火災の原因となる漏電防止のために、電気配線の点検・交換を確実に。
- 船曳における、曳綱・網のプロペラ絡みに注意。特に荒天時は乗り揚げ・座礁にもつながる。
- 事故原因が複合的な場合もあり、特にプロペラ絡みや根掛かりなどのトラブル対処の過程で事故が発生することも多い。トラブルの対処は落ち着いて安全第一で、漁具回収などを諦める決断も必要。
- 衝突の主な原因は、見張り不十分。居眠りや操業に注意を取られ過ぎないように注意。
- 操作レバー誤作動防止のために、ストッパーを確実にかける、合羽の袖口・裾、救命胴衣などが引っ掛からないように着る・注意する。
- 曳綱ロープにはねられないように、立ち位置の確認、ウインチ停止、ワイヤー・ロープ・スベル・ジャックなどの点検を確実に。
- 港内での乗り降りの際に落水が多い。注意するとともに、船や陸に上がる方法を想定しておく。
- 携帯電話を身につける。防水対策、落水後の取り出し発信操作、連絡先を確認しておく。(海上保安庁:118番)
- 出漁予定を家族、漁仲間と共有して、相互監視。(湖や川は警察:110番)
- 救命胴衣を常時、着実に着用！ □天候の急変に注意！ 無理は禁物！

★くみあい「命を守る運動」に取り組みましょう！

安全は各自の自覚が第一ですが、組合・船主・船長らの強いリーダーシップと責任感も重要です。救命ズボンを開発した兵庫県漁連さんでも「命を守る運動」としての強い想いと指導により、救命胴衣着用率と安全の向上が図られています。

「仲間の葬儀に出席する度、何度も情けなく悔しい思いをさせられた」というお話もありました。さあ、自身と仲間の「命を守る」ために動き出しましょう！

(着脱が楽、邪魔にならない)とそれぞれ特徴があるので、実際に試着してみることをお勧めします。

★着用上の注意 ～安全に、快適に着こなそう！～

ずれ上がらないように着て下さい！実際に、首掛けタイプの救命胴衣が、膨らんだ状態で発見されたが、浮力体がずれ上がっていて顔・体は水没した状態で亡くなっていた事例がありました。着方がゆるいと、浮こうとする救命胴衣と、沈もうとする身体が離れて、呼吸ができなくなってしまいます。



写真:救命胴衣のずれ上り例

また、救命胴衣が網、ロープ、操作レバー、キャブスタン、船体などに引っ掛からないように、裾や脇のベルトをちゃんと締めるとともに、救命胴衣の分だけ出張って引っ掛かりやすくなっていることも認識しておきましょう。

膨脹式のものは合羽などの外に着けましょう。内側に着ると手動用のひもが引けなかったり、うまく膨らまないことがあります。特に、腰ベルトタイプは腰付近に偏って膨らむと大変危険です。

また、日常の点検や定期的な部品交換も必要です。救命胴衣の改良点や安全情報・事故情報などがありましたら、県漁政課又は普及指導員までお伝え下さい。

～ より安全に・より快適に ～



「ただいま～」「おかえり！」

ライフジャケット